

2023年7月3日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

MUFG ウェルスマネジメントにおけるポートフォリオのリスク分析高度化について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規^{かめざわ ひろのり}、以下 MUFG）は、MUFG ウェルスマネジメントのサービスに、MSCI 社^[1]のリスクエンジンを導入し、総合的なアドバイザー型モデルの高度化を図ります。

MUFG では、お客さまのさまざまなライフステージにおける真の豊かさを実現できるよう、グループ一体でウェルスマネジメントサービスを提供しております。お客さま毎の資産保有状況やご意向に応じた最適な資産管理をサポートするため、MUFG ウェルスマネジメントデジタルプラットフォーム^[2]（以下 WMPF）を、株式会社三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社および三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社に全社展開をしており、現時点で120兆円を超えるお客さまの保有資産情報がWMPFにて分析可能な状況です。

MSCI 社が世界の個人投資家や機関投資家、銀行、保険、年金基金などのリスク管理を支援するシステムとして開発し、約30年にわたり提供しているリスクエンジンは、国内外の株式や債券、通貨、オルタナティブなどの銘柄単位のリスクのみならず、保有資産全体の包括的なリスクを3,000個超の複合的なファクターで常時・精緻に分析することが可能です。

MUFG は、MSCI 社のリスクエンジンを独自にカスタマイズし、本日、WMPF に搭載いたしました。MUFG 傘下の各社では、お客さまの総資産やマルチポートフォリオに内在する精緻なリスク要因・リスク量の可視化や、過去の金融危機時などを参考にした資産価値変動の推計などを通じ、機関投資家レベルに近いポートフォリオのリスク分析をお客さまにご提供できるようになります。

また、MSCI 社が開発した指標「RiskGrades™（以下、リスクグレード）」^[3]をWMPF内で活用することで、お客さまの金融資産全体を指標化することができ、代表的な資産クラスとの比較も容易に行うことが可能となります。この様な高度なポートフォリオのリスク分析機能をグループ一体で提供している金融機関は極めて少なく、MUFG がアジアでMSCI 社の「リスクグレード」を採用する最初の金融機関となります。MUFG は「リスクグレード」を筆頭としたリスクエンジンの活用により、不透明な金融市場環境下でも、お客さまの金融資産のリスク特性を考慮したより最適な解決策をお客さまにご提案できるようになります。

MUFG の共通プラットフォームであるWMPFは、今後も更なる高度化、最適化を図る計画です。引き続き、ウェルスマネジメントビジネスにおける競争力の向上と、より一層信頼・信用いただけるサービスの提供をめざしてまいります。

(図1) MUFG ウェルスマネジメントにおけるポートフォリオ・リスク分析高度化のイメージ



※WMPF・GMAP^[4]は、米国モルガン・スタンレーの知見も参考に開発・制定しています。

[1] MSCI社は 金融市場の透明性を高めることを通じてより良い世界を実現するため、世界の機関投資家・金融機関・資産運用業者・年金基金などの投資コミュニティや個人投資家がより良い意思決定を行えるように、50年以上にわたり、さまざまな意思決定支援ツールやサービスを日々提供しているリーディング・プロバイダーです。

[2] WMPFの詳細については、以下のリンクをご参照ください。

<https://www.bk.mufg.jp/news/news2021/pdf/news0927.pdf>

[3] 「RiskGradesTM」は、MSCI社が独自に開発・定義した指標であり、グローバル株式の長期間のリスク（変動率、年20%程度）を100とした場合の、個別商品の相対的なリスク値を算出しています。お客さまのお預かり資産全体のリスクグレードを算出する場合は、商品毎のリスクグレードに商品間の相関なども勘案したうえで算出しています。

[4] 「GMAP (Global Macro & Asset allocation Perspectives)」の詳細については、以下のリンクをご参照ください。

<https://www.bk.mufg.jp/news/news2022/pdf/news0825.pdf>

以上